京芸術大学を停年退官し名誉教授となる。

⑦ 黒田記念館起工式

昭和二年十月二十二日、本校敷地内に建設される黒田記念館の起工式が行われた。同日の『国民新聞』はその正面見取図を掲げ、次のように報じている。

故黒田子記念館
美術校内にけふ起工

去る大正十三年六月逝去したわが洋畫界の泰斗故黒田清輝子が臨終に際し子爵所有の不動産三分の一を美術事業に寄附する旨を遺言したのに基き遺言執行者樺山愛輔伯、久米桂一郎氏、打田辯護士等は不動産の換價處分を三井信託に委託し昨年末全部を處分する事が出來たので今春牧野〔伸顕〕伯を總裁に福原〔鎌二郎〕美術院長、正木〔直彦〕美術學校長、岡田三郎助、和田英作、藤島武二、岡田信一郎その他の諸氏を委員として種々研究した結果、黒田記念館を建設して故子爵の遺作を陳列し美術並に古典藝術の研究に資する事になつた

記念館建設の場所は、美術學校構内　工費は十數萬圓、總建坪三百六十餘坪の不燃質建築とすることになり岡田信一郎氏の手で先月初旬設計も完了したので愈々今二十二日午後二時半地鎮祭を執行の上竹中組の手で工事に著手する事になつた

此の工事完成の上は維持費十數萬圓と共に美術學校に寄附して美術研究に資する筈であると〔下略〕

この記事に記されているように、当初は黒田記念館を本校の所属とする案もあったが、帝国美術院附属に決定し、昭和五年に至り、ここに同院附属美術研究所が置かれた。なお、黒田記念館の建物は旧東京府美術館、本学陳列館（422頁参照）とともに岡田信一郎設計の美術館三部作と言われる。

⑧ 无型と工人社

昭和初期の工芸界の発展に大きな役割を果したグループに无型と工人社が挙げられるが、両方とも本校関係者が中心となった団体である。

无型は大正十五年六月、高村豊周らを中心に結成され、創立時のメンバーは高村豊周、杉田禾堂、山本安曇、豊田勝秋、西村敏彦、佐々木象堂、内藤春治（以上鋳金）、北原千鹿、村越道守（以上彫金）、鈴木素興、加藤居山、太田自適、佐藤陽雲、田口啓次郎、松田権六、山崎覚太郎、吉田源十郎（以上漆芸）、広川松五郎、渋江終吉（以上染織）、藤井達吉（雑工芸）、渡辺素舟（評論）の二十一名、本校卒業生は十二名、その内当時本校教官は五名あり、いずれも新進気鋭の作家である。その後、松田権六が退会、磯矢陽が同人となるなどがあった。昭和二年一月、高村の私費刊行で謄写刷りの『无

『无型』創刊号表紙